

12/25『キリストの愛にならう』(ヨハネ15:12~13)

長谷川 望 牧師

- *日本のクリスマスは1552年、フランシスコ・ザビエルが去った後に残った司祭トーレスが山口市で日本人信徒たちと共に祝ったのが最初である。その様子がルイス・フロイスの「日本史」に記されている。徹夜でミサに参加し、熱心に説教を聞き、賛美をした。クリスマスの意味は、キリストを礼拝することであることがよく表れている。また、全員が共に食事をし、高齢者も喜んで奉仕をしたという。
- *教会はキリストが土台であり、かしらである。キリストは教会のすべての上に立つリーダーであり、信徒一人ひとりはそのからだを構成する器官であり、それぞれが働きを担っている。教会はキリストの復活を記念して毎日曜日に礼拝をささげ、今も生きておられるイエス・キリストに出会うのである。キリストのいない教会は教会ではない。
- *「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」(ヨハネ15:12~13)

神の愛の特質は自己犠牲の愛である。主イエスは私たちの罪を背負って身代わりにご自分の聖い体をささげられた。私たちのために命を捨てられたのである。これは、見返りを期待しない一方的に与える無条件の愛であり、私たちはこの愛で救われ、永遠のいのちを得させてくださった。私たちが神を愛する前に神が私たち一人ひとり友と呼んでくださり、このように愛してくださっている。(Iヨハネ4:9~11)

- *その愛を受けている私たちがお返しをするには、感謝をもってイエス・キリストを受け取ることであり、私の救い主として迎えることができるようになる。「**神を愛するとは、神の命令を守ることです。**」(Iヨハネ5:3) 神のことば、キリストのことばをよく聞いて理解し、その言葉に従うことが神を愛することになる。
 - *また、私たちが互いに愛し合うことも、神が望んでおられることであり、神を愛する行為である。私たちは自分にばかり関心を持ち、自分の利益ばかり追い求めて自己中心癖に陥っていないだろうか。今の社会に目を転じれば、他国を思うよりも、自国の権利や利益ばかりを追い求める危険な風潮がはびこっている。互いに助け合おう、連携しようという心が薄くなっている。
- 1567年クリスマスに織田勢と松永勢の武士70人が休戦してミサを受け、料理を持ち寄って仲良く食事をしたことが記されている。また、第一次世界大戦の前線ドイツ兵とイギリス兵が非公式の停戦をしてクリスマスを祝った話も有名である。「互いに愛し合いなさい」という主イエスの声が響いていたであろう。イエス・キリストこそまことの愛の方、平和の君であることを私たちも覚え、そのご降誕を心から喜びたい。